



# 義歯の必要性

問い合わせ 保険介護課 ☎2141

## 国保通信②

### (2)咬合採得

臼歯(奥歯)が上下顎あり噛み合っている場合は、噛み合わせの高さが決まっていますが、上下臼歯がずれていたり臼歯がない場合は高さがあいまになりがちです。その場合、肩の力を抜き顎を引き舌を上あごにつけ噛み込むのではなく唇を閉じたときの高さまでゆっくり合わせます。

また、このときの噛み合わせは上下の高さだけなので食事のときにように噛み切ったりすり潰したりという動作が無いので、義歯の完成後に調整します。

噛み合わせは一人一人違いますので、この咬合採得をしっかりしないと噛める入れ歯がつくれません。歯科医師と患者さんの共同作業です。ちなみに、あまりに古い義歯を長く装着していると顎の骨が退縮し噛み合わせが低くなり、口の周りにシワができたり耳鳴りを起こすことがあります。

### (3)試適

試適とは歯を並べた口ウで作った義歯で、歯並びや義歯

の具合をみていただくことで

このとき義歯に使用する人工歯は、顔色・顔形などを参考にして、その人に合った物を選びます。

このときまでは、まだやり直しができますので歯の色・形・噛み合わせなど気になる所があれば、歯科医師にその場で伝えましょう。



さまざまな人工歯

### (4)完成

義歯が完成したときは、痛くて我慢できないところや噛み合わせが合わないところの調整をします。前述したように、咬合採得のときは上下の顎運動のみで食事のときの顎の動きとは違います。ですから

市医師会、市歯科医師会、市薬剤師会の先生方からの、健康よるず話を、3回シリーズで紹介いたします。

2回目は、市歯科医師会の神波治さんに、「義歯の必要性」について伺いました。

「いつまでも自分の歯で食事が出来れば…」それは誰もが思うことでしょう。しかし、さまざまな理由で私たちは自分の歯を失う可能性があります。

今日ではインプラントを選択する方法もありますが、残念ながら顎骨が細かったり、体の疾患などの関係でできない方もいらっしゃいます。そうなる最も一般的な治療として義歯を作ることとなります。

歯を失ったままにしておくとか噛む力が低下するばかりか、残りの歯に負担がかかり、歯が傾いたり伸びたりして全体の噛み合わせが悪くなってしまいます。

また、歯の隙間が増え食べ物挟まり虫歯や歯周病の原因にもなります。そのため、歯を失った場合には、なるべく早めに義歯を入れる必要があります。

あります。

これまでも、義歯について書かれた書物などがありますが、なるべくわかりやすく義歯のできるまでや痛みなどの原因など、患者さんがどのように対応されたら良いか書きつづつてみたいと思います。

義歯を入れて痛ければ食べられない。食べられないどころか義歯を入れていられない。これが小さな局部床義歯ならば、はじめておいても日常生活にはあまり困りませんが、総義歯では、はじめてしまつてすむという訳にはいきません。痛くない義歯を作るためにも、患者さんの協力が必要なのです。

義歯といっても実際にはさまざまな種類があります。大きく分けて2つの種類があります。

#### 部分床義歯(部分入れ歯)

ご自身の歯が一本でも残っている場合に使用されます。歯が残っていれば、それに掛けて義歯の動きを止められます。

#### 全部床義歯(総入れ歯)

上顎・下顎それぞれに歯が

いないとき、硬い食片を噛んだとき、歯ざり食いしばりなどの癖があると起こります。この押し潰された粘膜は初めは少し発赤している位にしか見えませんが、だんだんその範囲が広がります。義歯で噛めなくなってしまう。

③義歯と骨で粘膜を間に挟み込んでから義歯または骨が動く状態。ちょうど粘膜を骨に強く押しつけてから、さらにこじめるようになります。痛みは義歯装着時には現れません。義歯を使用しているうちに日ごとに痛くなります。



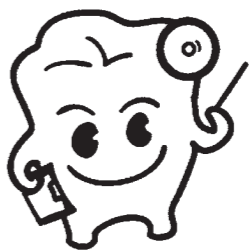
#### 我慢するのじゃ

#### 我慢するのはいけない

このように痛みの原因はいろいろあります。義歯を入れて我慢していただきたいこと

一本もない場合は、総入れ歯となります。

なお、形や素材・コウを使用しないなどいろいろと義歯の形がありますが保険外となる物もあります。しっかりとお口の中の状態を考えた上で、歯科医師に相談して自分に合った義歯を作ってください。



#### 義歯の制作

#### (1)印象

まず印象(型取り)ですが、顎堤にピッタリ合った義歯を作るためにも息苦しいとは思いますが5〜10分程我慢していただくようになります。コウとして、上顎のときは気管に流れ込まないように顎を引き鼻でゆっくり呼吸します。下顎のときは、同じく軽く顎を引き舌を上にあげて安静にします。

は味覚の変化、発音の仕方の変化です。義歯を装着すると話にくい・喉がつかえて気持ち悪い・金属など違和感があるなどいろいろ問題が起こります。多少の修正で回復しますが、義歯という異物を口の中に入れるのですから少しずつ慣らしていきましょう。

我慢してはいけないことは、疼痛です。痛みを我慢したり古い義歯を装着していると粘膜に深く食い込んだような局部的な傷になり、いわゆる潰瘍になる場合もあります。痛いときは我慢せず、行きつけの歯科医院に行ってください。

義歯はなぜ必要なのかを理解して「食べる」「話す」などの機能維持を保ちながら快適な生活をお過ごしください。

